

平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	医療情報システムの改修				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	市立病院	課等名	高松分院事務課	内線	100	73					99
政策体系上の位置付け	政策	生き生き安心のまちづくり				関連計画、 条例等					
	施策	医療と救急体制の充実									
基本事業											
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続								
事業期間	14年度～	18年度	環境調整会議の必要性	あり							

【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを目ざします。

目的の記述	対象 (人・物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	検査を受ける患者 管理室職員	外来・病棟・健康管理 医事業務	検査件数	当初(15)	17年度	18000
				16年度	23834	
				当初(15)	17年度	
				16年度		
目的の記述	意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値 (実績・目標)			
	検査データを患者に迅速に提示する。 検査データを関係部署に迅速に届ける。 検査で入力したデータを医事会計に取り込めるため入力漏れがなくなる。また人間ドック受診者のデータを二重登録しなくて済むため事務量が減る。	検査コンピューターの更新進捗率	当初実績(15)	最終目標		
			16目標	16実績		
			17目標	0.3		
			当初実績(15)	最終目標		
			16目標	16実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	医事会計システム及びサブシステム導入により、迅速で正確な会計処理、院外処方箋の発行、リハビリ予約の効率化を図る事業。	電子レセプトの導入…7～9月を試行し、10月分診療報酬から実施した。	検討会議回数(試行含む)	試行3カ月 3256件分
	16年度の実績			
	17年度計画	検査コンピューターシステム更新の検討 検査コンピューターシステムは検査機械(血算、生化学、HA1c、血糖)からのデータを取り込み、帳票に打ち出ししたりデータとして保存しているコンピューターシステムである。古いオフコンタイプであり、メーカーからの部品供給もないためいつ壊れるか判らない状態であるため、早期の更新が必要である。17年度はこのシステムについて、より少ない投資で効果があがるように機種やカスタマイズの検討をする。	検討会議回数	

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額	
事業費	特定国庫支出金	5,000	27,890		
	特定県支出金				
	財源起債	25,000			
	その他				
	一般財源		2,110	15,000	
事業費計(A)		30,000	30,000	15,000	
人件費	正規職員所要時間	50		200	特定財源内訳 補助:国民健康保険特別調整交付金(国) 起債:医療機器整備(病院債)
	臨時職員等所要時間	32			
	人件費計(B)	212	0	704	
	トータルコスト A+B	30,212	30,000	15,704	

(3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値			
	外来患者の待ち時間が短縮され、病棟患者のデータが迅速に届くことにより、治療に反映され、早期治癒、退院に繋がる。	医療情報システム改修全体の進捗率	16目標	0.7	16実績	0.7
			17目標	0.75		
			16目標		16実績	
			17目標			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
現在使用中のシステムのサポート体制の打ち切りと、2年ごとの診療報酬の改定(薬価を含む)へのパソコンで対応可能とすることを目的に平成14年度から開始した事業。厚生労働省からレセプト電算処理システムの導入要請が来ていることも背景のひとつ。	高松分院の存続も含め、市立病院のあり方について経営企画部で検討されており、その結果によっては平成18年度以降の計画を変更することとなる。	医事会計システム変更は利用者には分かりづらいため、直接の意見はない。処方箋システムについては以前の手書きのコピーに比べ綺麗・明瞭のため、処方箋薬局よりの問い合わせ・苦情は激減した。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がある (その理由) 対象は変わらないが、病院の今後のあり方によっては縮小する必要もでてくる。		廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響あり (その理由) 検査システムを更新しなかった場合に、古いサーバーが故障したときは交換部品もなく、復旧することができない。検査データを打ち出すことができず、手書きになってしまう。
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) 意図は変わらない		類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 飯田市立病院にも医事システム(電子カルテ)検査システムがあるが、病院が違うため不可能。
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由) 市立病院(高松分院)の内部業務効率化と患者へのサービス向上のための事業であり、市の関与は必要である。		効率性 評価	成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?
			公平性 評価	受益者は誰か? 負担の是非、程度は妥当か?	(評価) 妥当である (その理由) 患者や院外薬局にとって、正しい会計、処方箋、検査結果を提供することは当然である。また診療報酬で定められているため、それ以外の負担を求めることはできない。

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか)の改革改善案	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	一般病棟が閉鎖し、療養54床のみ稼働の現状では、成果に対し、コストが高く なる。現検査システムが故障した以降は臨時職員等による手作業でデータを 健康管理室、外来、病棟へ提供する体制をつくる。	今まで当たり前印刷されていたデータを 手作業で写す事に対する不安がある。1日 の検査件数、手作業での処理時間、人件 費を積算することが必要。